

**2011年8月改訂(第8版)
*2008年12月改訂

日本標準商品分類番号
871242

使用期限 外箱、容器に使用期限を表示

* 承認番号	22000AMX02010000
* 薬価収載	2008年12月
販売開始	1956年2月
再評価結果	1976年4月

鎮 痙 剤
劇薬、処方せん医薬品^(注)

* ブスコパン[®] 注20mg Buscopan[®] Injection 20mg

(ブチルスコポラミン臭化物製剤)

®=登録商標



注) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- (1) 出血性大腸炎の患者
[腸管出血性大腸菌(O157等)や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。]
- (2) 緑内障の患者
[眼内圧を高め、症状を悪化させることがある。]
- (3) 前立腺肥大による排尿障害のある患者
[更に尿を出にくくすることがある。]
- (4) 重篤な心疾患のある患者
[心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。]
- (5) 麻痺性イレウスの患者
[消化管運動を抑制し、症状を悪化させるおそれがある。]
- (6) 本剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【原則禁忌(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)】

- 細菌性下痢患者
[治療期間の延長をきたすおそれがある。]

【組成・性状】

* 販売名	ブスコパン注20mg
成分・含量	1管(1mL)中ブチルスコポラミン臭化物 20mg
添加物	塩化ナトリウム 6mg
剤形	無色アンプル入り注射剤
内容物	無色注射液
pH	3.7~5.5
浸透圧比	0.9~1.0

【効能・効果】

下記疾患における痙攣並びに運動機能亢進
胃・十二指腸潰瘍、食道痙攣、幽門痙攣、胃炎、腸炎、腸痙攣、痙攣性便秘、機能的な下痢、胆のう・胆管炎、胆石症、胆道ジスキネジー、胃・胆のう切除後の後遺症、尿路結石症、膀胱炎、器具挿入による尿道・膀胱痙攣、月経困難症、分娩時の子宮下部痙攣
消化管のX線及び内視鏡検査の前処置

【用法・用量】

通常成人には1回1/2~1管(ブチルスコポラミン臭化物として10~20mg)を静脈内又は皮下、筋肉内に注射する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 前立腺肥大のある患者
[尿を出にくくすることがある。]
- (2) うっ血性心不全のある患者
[心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。]

- (3) 不整脈のある患者
[心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。]
- (4) 潰瘍性大腸炎の患者
[中毒性巨大結腸を起こすおそれがある。]
- (5) 甲状腺機能亢進症の患者
[心拍数を増加させ、症状を悪化させるおそれがある。]
- (6) 高温環境にある患者
[汗腺分泌を抑制し、体温調節を障害するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1) まれにショックを起こすことがあるので、本剤の使用に際しては、救急処置の準備を行うこと。
- (2) 投与に際し、ショック発現を完全に防止する方法はないが、出来る限り回避するために次の事項に注意すること。
 - 1) 患者の体調について、十分に問診を行うこと。
 - 2) 注射後は、患者の状態を観察し、異常があれば直ちに救急処置を行うこと。
 - 3) 眼の調節障害、眠気、めまい等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。

3. 相互作用

【併用注意】(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗コリン作用を有する薬剤 三環系抗うつ剤 フェノチアジン系薬剤 モノアミン酸化酵素阻害剤 抗ヒスタミン剤等	抗コリン作用(口渇、眼の調節障害、心悸亢進等)が増強することがある。	併用により本剤の作用が増強されることがある。
ドパミン拮抗剤 メトクロプラミド等	相互に消化管における作用を減弱するおそれがある。	本剤は消化管運動を抑制するため、ドパミン拮抗剤の消化管運動亢進作用と拮抗する。

4. 副作用

調査症例1,756例(再評価結果)中副作用が報告されたのは267例(15.21%)であった。主な副作用は口渇106件(6.04%)、眼の調節障害52件(2.96%)、心悸亢進21件(1.20%)、顔面紅潮19件(1.08%)、めまい13件(0.74%)等であった。また、臨床検査値においては特に一定の傾向を示す変動は認められていない。

(1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー様症状(頻度不明):
ショック、アナフィラキシー様症状(悪心・嘔吐、悪寒、皮膚蒼白、血圧低下、呼吸困難、気管支攣縮、浮腫、血管浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

